

1. 2024 年度活動計画

① スタディツアー事業と子供の英語教育ツアー

例年実施している桜丘高校のスタディツアーは中止となる。それに代わって日本福祉大学付属高校のツアーの一部日程（マングローブ植林、Pagadpat 祭り、慰霊碑訪問、山間部で植林）を受け入れる。他の日本人ボランティアの受け入れを順次再開したい。現在、3 つのスタディツアーを計画している。

2 回試行した子供の英語教育を本格的な実施に向け、検討を行う。

② 日本 NGO 連携無償資金協力

2 年次となる「干ばつが常態化するボホール州における、雨水貯留タンクの建設による、安全な水の供給と衛生教育の体制づくり」を実施する。ボホールにて地域・学校に雨水を貯留・浄水して提供するプロジェクトを進める。

③ イオン環境財団

「人と自然が共生する里山としてのマングローブ林の再生（第 3 年次）」を実施する。植林サイトは EB マガロナ群にある。行政、住民団体が積極的で、エコツーリズムによる地域振興に力を入れており、ここに NGO が加わることでさらに相乗効果を上げることができる。植林余地は 100ha あり、長期の支援が望める。リコージャパンの植林の一部もここで行う。

④ 地球環境基金

海洋プラ問題の緩和につながる、ボホールの離島におけるコミュニティベースの 3 R とゴミ減量化を実践する最終年のプロジェクトである。持続性確保とアドボカシー形成の活動を行う。

⑤ 緑の募金 1

緑の募金事業の 3 年目の植林事業。ネグロス Tabao Baybay 村で 20,000 本の植林を実施する予定。Balaring 村のようにサイトが外洋に面しており、高潮への対策を実施する。

⑥ 緑の募金 2

単年度の事業。SDGs の考えを取り込んだ植林事業。クラウドファンディングが成立し、ボカナで 2 万本の植林を実施する。2 回、日本人ボランティアを募集し、植林を行う。

⑦ Lush

Patag の在来種である Stingless Bee を使用した養蜂プロジェクトである。住民の生計向上のほか、森林保全、農業振興の機能を併せ持つ。イカオ・アコとしてスタートアップの位置づけであり、今後、範囲を広げて対象地域を拡大したい。

⑧ 企業連携

8.1 ニチバン株式会社

「ニチバン巻心 ECO プロジェクト」を継続する。2019 年度に実施した社内研修の現地受け入れを再開する。

8.2 リコージャパン株式会社

5.5 万本前後のマングローブ植林の寄付をいただく予定である。ネグロス中心で実施したい。

8.3 アストモス株式会社

アストモスはカーボンクレジットを創出する事業を計画しており、イカオ・アコはそれをサポートする役割を期待されている。別途、小型の淡水化装置のフィリピンでの展開を双方で検討してい

る。

8.4 その他の企業

他に複数社から植林やカーボンクレジットに関する問い合わせが来ている。

⑨ パガパットフェスティバル

規模をコロナ前の規模に戻してパガパット祭りを8月に実施する。

⑩ 国内活動

ーサービスグラントによる事業計画の見直し、HPの改訂

ー名古屋 NGO センター主催の長丁場の研修事業に参加

イカオ・アコの中期ビジョン改訂版(案)				2024~26年度		
事業名	植林事業	農業の6次産業化	安全な水供給事業	ソーシャルビジネス事業	国内活動	組織運営
これまでの実績	<ul style="list-style-type: none"> ・マングローブを累計220万本の植樹、参加者は毎年のべ2,000人超え ・パラリン・ボカナ・ピクトリアスにエコパーク造成 ・パラリンの住民団体が自立しつつある ・日本の大企業がCSRとしてイカオ・アコの活動を支援 ・山間部では植林したコーヒーの収穫 ・山間部で行われている炭焼きの実態調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料・イチゴ栽培の専門家の派遣 ・苗会社、肥料会社との連携 ・イチゴ栽培に必要なハードウェア整備 (4サイトのうち、2サイトの生産がN連目標の50%を達成) ・ボホールに大規模液肥施設の建設 (JICA草の根技術協力事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本水大賞受賞 ・バリグアンとシバトにランバンを設置し、学校や地域に水を供給 ・ボホールの9地域で、9基 (2023年度時点) の雨水貯水タンク、供給システムを建設 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーガニックカフェ経営7年間 ・フェアトレード12年間 ・国際協力研修センター運営8年間 ・クラウドファンディングの経験 	<ul style="list-style-type: none"> ・桜丘高校などで特別授業、団体訪問の受け入れ ・ニチバン国内植林に参加 ・各種研修に参加し、職員の能力開発 ・ESDコンテスト、七夕短冊コンテスト等のイベントを開催 ・他団体のセミナーやイベントでの講師 (スピーカー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本本部事務所を移転 (名古屋NGOセンターと同居し、情報共有などのメリットを追求) ・「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」を受け組織基盤強化に取り組む ・日比で人事制度・就業規則の整備 ・事務局職員を採用 ・会員管理ソフトを導入
中期ビジョン	植林参加の目的を多様化する	自立的な農業のモデルを作る	安全な水を地域・学校に届ける	ソーシャルビジネスを独立採算制にする	SDGsへの取り組みが多くの人々に知られる 参加型イベントが不定期に行われる	働きやすい職場環境が整い、活動の支援ができる 効果的な会員制度が完成
重点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・植林事業の見える化の取り組み (植林本数・映像・画像・ツールなど) ・エコパークを活用したエコツーリズムの再構築 ・植林ビジネスの展開 (記念植樹・マングローブウェディング・オーナー制度) ・バガバットフェスティバルなどの植林イベントを開催 ・カーボンクレジット化のための営業 ・山間部で植林した果樹の収穫の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家現地派遣 ・イチゴの栽培をネグロスの高地に拡散 ・イチゴ農園の観光化 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区に給水設備を設置しモニタリングを実施 ・省エネルギー・省資源の利水技術をマスター ・行政が主体的に水問題を解決する仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの専門家の派遣 ・ビジネスパートナー (現地スタッフ) の雇用 ・カフェ、研修センターの再建 (事務所を含む) ・研修センターを学生だけでなく、企業研修の受け皿に 	<ul style="list-style-type: none"> ・不定期に会員同士が交流できる場の設置 ・広報に関して①SNSの強化②HPの改訂③広告の活用 ・フェアトレードグッズを発掘し、国内で販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員制度の構築 (既存の個人情報利用、効果的な会員特典、入金確認がスムーズにできる管理システムの導入など) ・人事制度・就労規則・研修制度などの整備 ・現地インターン・ボランティア・プロボノの受け入れ ・総会・理事会の定期開催
3年目標と成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間植林参加者数が、日本人100人、フィリピン人4,000人 ・植林に関するビジネス・事業が立ち上がる ・エコパークの建設、そのための資金の獲得 (橋・タワー・看板など) ・山間部で商品開発 (メロン、はちみつ、チョコレート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・イチゴの生産性を日本水準の半分に接近 (0.7t/10a) ・観光化促進のため、加工場とカフェの活用 ・温室18棟の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・山間部・島しょ部に合った給水技術を啓発 (淡水化装置も視野) ・1年に1校以上のベースで学校に安全な水を届ける ・上記のノウハウを持ったコーディネータを2名以上育成 ・行政・住民が参考にできるマニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅を取得し、新たなオフィスとして活用。青空市場を併設予定 ・日本企業の研修を受け入れ (2社に拡大)、子供の英語教育のツアーなど新たな視点でのツアーにグレードアップ ・個人の植林ボランティア参加者の増加 (50名/年間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内で不定期的に活動 ・会員同士の顔の見える関係 ・サービスグラントの「プロボノプロジェクト助成」 (Panasonicの社員がプロボノとして参加) を受けながら事業計画、HPの改訂の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外でスタッフを12人雇用 ・総会・理事会の定期的な開催 ・有料会員数 (マンスリーサポーター) が30人 ・年間の個人寄付と会費収入が合計18万円 ・団体内部の新体制の構築